

2016 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科目区分名	表象文化学部共通科目
-------	------------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

この科目群は、英語英文学科・日本語日本文学科の両学科を統合し、新たな理念のもとに発足した表象文化学部の新機軸であり、また基幹となるべきものである。そこで全学の数値と比較して分析したい。

残念なことに、表象文化学部共通科目の平均値は、全学の平均値よりもほぼ全てにわたって下回っていた。唯一上回っていたのはQ6の授業レベルだけであった。この結果については真摯に受け止め、今後の授業の参考にしなければならない。特にQ1の授業内容を理解できたかどうかは、ちょっとした工夫で数値を上げられるはずである。

それとは別に、今回は数値の高い科目と低い科目の差がはっきりしているように思われた。「英語で案内する京都Ⅰ」、「外国語教育論Ⅰ」、「京都を読む・歩く・見る」などの数値は平均値をはるかに上回っている。それに対して「英語で読む日本昔話」、「京ことば」の数値はかなり低くなっている。これを改善すれば自ずから全体の数値も上がるはずである。もともと興味を惹くような科目のはずなので、教員の努力を期待したい。

ただし数値の高低は必ずしも授業外学習時間と正比例しておらず、逆に数値の低い「英語で読む日本昔話」は自主学習時間が平均よりずっと多い。仮にそれが評価を下げているとすると、学生側の授業に臨む態度・意識にも問題があるのかもしれない。アンケート結果の分析には十分な注意が必要のようだ。

毎度のことだが、一回ごとのアンケート結果の評価に留まらず、毎年アンケート結果を蓄積することで、継続して数値が目立って低い科目がないかどうかを分析し、その根本的な原因究明も行っていきたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。